

(別紙8)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年11月4日

【評価実施概要】

事業所番号	0192500015		
法人名	有限会社 アマランス		
事業所名	グループホーム あまらんす		
所在地	北海道余市郡赤井川村字赤井川409番地1 (電話) 0135-35-3789		
評価機関名	株式会社 サンシャイン		
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F		
訪問調査日	平成21年10月30日	評価確定日	平成21年11月10日

【情報提供票より】(平成21年9月30日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 18年 6月 19日		
ユニット数	2ユニット	利用定員数計	18人
職員数	17人	常勤	16人、非常勤 1人、常勤換算 10.3人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	2階建ての	1~2 階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000円	その他の経費(月額)	水道光熱費:20,000円 暖房費:9,000円(10-5月)
敷金	有(30,000円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有()円	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	1ヶ月当たり		1,000円

(4) 利用者の概要(9月30日現在)

利用者人数	18名	男性	3名	女性	15名
要介護1	2名	要介護2	3名		
要介護3	4名	要介護4	6名		
要介護5	3名	要支援2	0名		
年齢	平均 83.9歳	最低	71歳	最高	96歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	余市協会病院・赤井川診療所・ねりあい歯科医院・小嶋病院・林病院
---------	---------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホーム「あまらんす」は、遠くに望む山々で季節の移り変わりを肌で感じる事ができる自然豊かな赤井川村の一角に位置し、環境に恵まれたグループホームである。運営者の「自分が住みたいと思う家」を作りたいという思いは職員にも浸透し、利用者とお互いに支え合いながら日々感謝の気持ちを持って穏やかな毎日が送れるような温かなケアを行っている。まだ開設3年であるが地域や役所との関係も深められ、グループホームの夏祭りは村長をはじめたくさんの地域住民が参加して盛大に開催されている。災害訓練は地域住民の参加の下夜間に避難訓練を行うなど多方面に渡り地域と一体になるような運営が行われている。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	同業者との交流は道内の認知症ケアネットワークに加入して積極的に行い、災害時における地域住民の協力体制についても運営推進会議で議題に取り上げ、地域住民参加による夜間の避難訓練を行うなどの取り組みが行われている。外出支援なども積極的に現在も取り組みの継続中である。
重点項目①	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価は、職員全員に評価表を配布して記入してもらい管理者がまとめあげて作成している。自己評価に取り組む時間が短く職員から多くの意見は集約できなかったが、日々のケアを振り返り、気を引き締める良い機会になったと感じている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は、村会議員や役場職員、町内会代表、家族などが毎回ほぼ全員参加して2ヶ月毎に開催されている。事業所の行事や外部評価、災害援助などを議題として取り上げ、参加者から活発な意見が出される事でサービスの向上に役立てられている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の来訪時には管理者や職員が利用者の様子を話し、積極的に家族から意見や思いを聞くようにしている。家族から出された通院介助の希望などは、職員で話し合い可能な限り叶えられるように配慮している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会に加入し、地域の掃除や高齢者交流会などの行事に参加すると共に、村祭りや味覚祭りなど地域のお祭りにも積極的に参加している。保育所や小中学校との交流も盛んで、運動会や学芸会に招待され参加している。今年は初めて事業所の夏祭りを開催し、ボランティアの協力の下利用者も盆踊りを楽しみ、地域住民も大勢参加して盛大に行われた。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	昨年の外部評価を契機に、事業所の理念を基本とした「利用者の尊厳を大切に、心のこもった介護をする」という内容を柱とした介護スタッフ理念を職員全員で作成し、日々の介護に活かしている。	○	現在も日々行われている地域との盛んな交流を内容とする「家庭的な環境と地域住民との交流の下で」という文言が含まれる、介護スタッフ理念の再考を期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	基本理念はパンフレットに掲載し、新たに職員で考えた介護スタッフ理念は玄関や応接室、各ユニットのスタッフルーム、リビングなどに掲示している。それぞれの理念は研修会などで取り上げ、全職員での共有を図っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、地域の掃除や高齢者交流会などの行事に参加すると共に、村祭りや味覚祭りなど地域のお祭りにも積極的に参加している。保育所や小中学校との交流も盛んで、運動会や学芸会に招待され参加している。今年は初めて事業所の夏祭りを開催し、ボランティアの協力の下利用者も盆踊りを楽しみ、地域住民も大勢参加して盛大に行われた。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の自己評価は、職員全員に評価表を配布して記入してもらい管理者がまとめあげて作成している。自己評価に取り組む時間が短く職員から多くの意見は集約できなかったが、日々のケアを振り返り、気を引き締める良い機会になったと感じている。	○	自己評価に時間をかけることで、全職員が評価に対する理解を深め、更なるケアの充実に活かされるよう期待したい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、村会議員や役場職員、町内会代表、家族などが毎回ほぼ全員参加して2ヶ月毎に開催されている。事業所の行事や外部評価、災害援助などを議題として取り上げ、参加者から活発な意見が出される事でサービスの向上に役立てられている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	村役場福祉課などと連携して、書類関係についてのアドバイスを受れたり、村の行事参加について相談するなど運営推進会議以外でも行き来しサービスの向上に役立てている。事業所の夏祭りには、村長も参加している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	「あまらんす便り」を2ヶ月毎に発行して、事業所と個々の利用者の様子を家族に報告している。毎月の出納金銭報告時には、ホーム便りが発行されない時も、個別の様子を手紙に書いて同封している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来訪時には、管理者や職員が利用者の様子を話し、積極的に家族から意見や思いを聞くようにしている。家族から出された通院介助の希望などは、職員で話し合い可能な限り叶えられるように配慮している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員は常に2ユニットの利用者と交流を行っているため、異動による利用者のダメージはない。職員の離職時は、以前お別れ会をした事で不穏になる利用者もいたため、現在はさり気なく退職するようにして利用者の精神面に配慮している。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修は事前に年間計画を立て、経験に応じて職員を参加させケアの向上に役立てている。内部研修は年間計画を立て、虐待防止や利用者に応じたケアの仕方、口腔ケアなど内容により外部から講師を呼び、積極的に毎月行われている。新人研修はマニュアルを作成して充実した研修を行っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	道内の認知症ケアネットワークに加入して研修会に参加し、同業者と交流する機会を積極的に作るようにしている。研修会などで名刺交換をして、少しずつ他の事業所を訪問する事で、サービスの向上に役立てるように取り組み始めている。	○	研修会などの機会を活用して同業者との交流を深め、一般職員の相互訪問や実習を行いながらケアの向上を図って行きたい意向なので、その取り組みを期待したい。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始前に、管理者などが本人に会いに行く事で面識を持ち、スムーズに利用開始できるように配慮している。本人と家族が見学に来てお茶などの時間を過ごしてもらおう事もある。利用開始後は、職員が会話に入り利用者間の仲立ちをしたり、食事の量を調節して無理なく食べられるような配慮をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、家事を手伝ってもらい、靴下を編んでもらう、落ち込んでいる時に励ましてもらいなど心身共に利用者に支えられていると感じている。利用者の穏やかさに心が癒され、理念のように利用者にも支えられていると感じている。利用者とおやつを一緒に取るなど、ゆっくり過ごす時間を意識的に作り、共に過ごしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	通院介助の時など、利用者と1対1の時間を利用してゆっくり会話をすることで、思いや意向を把握するように努めている。表現の低下している利用者は、日々のケアの中での働きかけで表情や仕草を見極め、思いや意向を把握するように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用開始時は計画作成者が家族や病院などの関係者から情報を収集し、暫定計画を作成している。利用開始後は申し送りやミーティングでの意見交換を基に、1ヶ月以内に介護計画を作成している。計画には会話の中で得た本人の要望も入れている。完成した計画書を家族に郵送し、意見も聞きながら別紙で同意書をもっている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	計画作成者は担当職員から情報をもらい、ミーティングなどで本人の状態を確認し、ほぼ3ヶ月毎に見直しを行っている。精神症状や入退院時の状態変化、また食事や排泄の対応などで介護内容が変わった場合は、新たな計画を作成している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	遠方以外の受診・送迎介助は、事業所の車で行っている。遠方への受診も、家族の状況に応じてできる範囲内で送迎することもある。点滴治療などが必要な時は、看護職員が主治医と相談し、往診の依頼や点滴のため毎日通院するなどして入院回避に努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は入居前のかかりつけ医を基本的に継続し、遠方から入居した場合は、家族・かかりつけ医と相談しながら近くの病院や協力病院に変更している。受診時には健康の情報を提供し、主治医の説明や受診記録はファイルに綴り、必要な時は家族に結果を報告している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に「看取りについての健康管理書」を説明し、延命処置についても詳細な内容で確認し同意書を得ている。可能な限り看取り介護を行うが、吸引などの医療処置が生じた場合には入院治療が必要になることも話し合っている。全職員は救急救命を受講し、緊急時の対応や見守りを強化して対応している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	自分ならどう対応して欲しいかを常に話し合い、禁止的な言葉や威圧的な対応がないように努力している。管理者は語調を柔らげるなどの声のトーンに注意し、慣れ親しんだ利用者にもきちんとした言葉遣いができるように指導している。個人情報の書類は事務所に保管し、記録は外部から見えない場所で書き、プライバシーに配慮している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事時間や朝の体操など大まかな日課はあるが、午後のボール遊びや昔の遊びなどのレクリエーションには強制しないで、その時の意向に合わせて対応している。個人の希望に沿って買い物や外食に同行したり、全員でアイスクリームを食べに出かけたりしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者との会話の中で、食べたい物を把握して献立に取り入れている。簡単な野菜の皮むきや切るなど調理の準備に利用者も参加し、下膳、食器洗いや食器拭き、お膳を拭くなど、その日の状態や身体能力に応じて職員と一緒にやっている。職員は食事介助をしながら一緒に摂っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴が可能な態勢で、午後に利用者の希望に沿って入浴を支援している。体調によっては午前中に入ることもあり、最低でも週2回は入浴が実施できるように確認している。また、異性介助を嫌がる人には曜日を変更して同性介助を行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者はカーテンの開け閉め、暦をめくる、植木鉢の手入れなどそれぞれの役割がある。趣味を生かして、靴下を編んで村の文化祭に出展している人もいる。事業所の畑に利用者も一緒に出かけ、サクランボやブドウの収穫を楽しみ、法人が運営管理している近くのカルデラ温泉にも出かけ、入浴や交流を楽しんでいる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	介護度が高くなり、散歩などの外出は少なくなっているが、日光浴を兼ねて外で体操をしたり、暑い時は外のベンチで夕涼みを楽しんでいる。近くの公園に車で出かけたり、買い物をしたりしている。冬は天候を見て、大型店に車で行きショッピングを支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関の開閉に音が出る工夫をして利用者の出入りに注意している。夕方には、利用者の所在を2回に分けて確認している。外に出た時は職員も後について行き、利用者の気分を見計らって声をかけ、安全に配慮した対応をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練は年に3回実施し、消防署の協力の下で春と冬に日中の訓練を行い、その他は夜間の訓練を自主的に行っている。避難場所や近隣住民も含めた災害時の連絡網を作成し、訓練には近所の人も参加している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日を通しての水分量、食事量は記録して、個人の状態を把握している。キザミ食など形態を変えて対応している。栄養バランスについては、献立表を基に主治医に年に数回は相談や指導を受けたいと考えている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	新築の建物内は全体が広く、出入口に木製の引き戸を統一し家庭的な雰囲気である。共用空間は明るく、大枠の窓からは季節の樹木や風景が見渡せる。壁には時計、絵画、暦が飾っており、エレベーター前には地域住民や家族と一緒に楽しんでいる事業所行事の写真が貼っており、住民との生活に溶け込んでいる様子が伺える。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入口には小さな額に入れた顔写真が掲げてあり、自室が分かるように工夫がなされている。また、居室内には馴染みの家具類が設置されており、仏壇やテレビが持ち込まれている。移動が困難な利用者の居室には、仲の良い利用者が訪問し談話できるようにソファを準備するなどの配慮も見られる。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。